

---

# **魔法少女リリカルなのは～転生されちゃったよ。剣士と騎士が～**

カイクウ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは～転生されちゃったよ。剣士と騎士が～

### 【Zコード】

N3175Y

### 【作者名】

カイクウ

### 【あらすじ】

ある日零式の話をしていた少年達。すると、落とし穴に落ちて気絶しちゃった！！気がついたら赤ん坊からリストートだとさ。ゲヘツミ。しかも転生されたときは・・・魔法の世界だって！意味わかんね〜。これはとある少年たちの話である。脚注、この話は馴文です。天の声がいます。一人ぐらいで書いてます。そこんとこ4649。そしてこれはもしかながら、アルバス・ダンブルドアはセブルス・スネイプに殺害されることや、イッキこと南樹がコロ爺に貰つた壊れたホイールがバグラムであることや、ヴォイジャー

が7年掛かりで地球に帰還することや、上条当麻に説教されて殴られた男は女の子とフラグを立てる「カミやん病」に感染することや、御坂美琴は妹達を助けるべく自殺しようとして上条当麻に説教され止められる」とや、古泉一樹は機関のリーダーであることや、涼宮遙は事故で三年間眠り続けその間に速瀬水月が鳴海孝之の彼女の座に納まることや、ドルアーガを倒さずにドルアーガの塔の60階に行くとNAPで1階に戻されてしまつことや、柏木四姉妹は鬼であることや、ダスマダードが皇帝の分身であることや、フイリップの正体は園咲琉兵衛の長男・来人であることや、アポロがアポロニアスの生まれ変わりで太陽の翼であることや、白鐘姉妹は秘密組織ワタツミ機関のイカルス計画に関わっていることや、カノン・ヒルベルトはミズシロ火澄に殺されることや、ローウィンはオーロラによつて闇の世界シャドウムーラに変化することや、NESシリーズは本編ではそんなに活躍しないことや、クリア・ノートは「シン・クリア」の術が破られることに完全体へ近づいていくことや、「勇者バトルはあらかじめ空導王アンブレアス＝ガエアによって仕組まれていたことや、ケビン・スペイシー（犯人）の証言は全てその場の思いつきであることや、アンサイクロペディアはウイキペディアのパロディであることを知らないのであれば、充分注意して、うわなにをするやめ」

第一話～転生だよ！～全員集合！～（前書き）

あれだね。FFXだね

## 第一話～転生だよ！～全員集合～～

とある少年たちの会話の会話

「あー……だるい……」

「やつだなー……」

赤髪の少年と銀髪の少年がいかにもだるそうに話をしている。  
なんか歩幅も狭いしね。

「あー……やうこや。しないだ零式買ったのよ

「えー？ いなー……どうだつた？」

「いやあれマジ面白こせー……せばこから！ 神ゲー神ゲー！～

「僕、日本のゲームってあんまやらないんだよね……けど、  
零式は外国でも騒がれてるらしきけどね。僕の父さんが買つてた

「ふ～ん…………じゃあお前の父さん」や～しきらいだよ。零式

「いや、父さん、す～」零式氣に入っちゃつてや。や～なこの日は五百重金庫にボーティーガード一人つけて保管してるんだよ」

「いや、もはや国宝なみの扱いだね。零式。てかお前の家、どんな家だよ」

「父さん、総理大臣だからね。」

「変わつて」

「いろいろ大変だよ？僕の家」

「これこれって？」

「24時間勉強勉強」

「じゃあ無理だ。俺勉強とアルコールは苦手だから。やつたら幻覚見ちゃうもん」

「…………大変な体質だね」

「ああ…………だからしたくてもできないんだよ…………勉強

「」愁傷さま」「頃くん」

「誰が一ノ富だ。誰が」

「せういえば最近お父さんがアニメのロバロ買つてきたんだよ」

「何の?」

「なんだっけ? ··· 魔法少女 ··· リリカル ··· な

「

銀髪の少年がなのは、と言いかけた時だつた。  
急に景色が止まつた。正確に言つと、少年達が止まつたのがなー。

「あれ? 地面が無いよつな ···

そりやねうだら。だつて地面がないんだもの  
簡単に言つと、アニメでよくある、落とし穴?

「否 ··· ··· これは ··· ···

「空間がわれてるがな

「(三) ··· (三)

「ねえ、僕たちはかうじうなるの

「多分 ··· ··· 死ぬ?」

「(三) ··· (三)

そしてそのまま少年たちは落ちてこさせましたとや。奈落の底へ・・・

「やだああああああああ・・・・・・・・」

こうして少年たちの冒険はこうやって始まりました  
多分少年たちの新しい人生が始まります

あ、そうだ。今回からナレーションを務めさせていただきます。  
私、天の声と申します

どうかよろしくお願ひします

第一話～目が覚めたら体が縮んでいた！～

（光太郎サイド）

・・・・あれ?おかしいな?

力を入れてもう一回

あれ?おかしいな?

ようやく意識が覚醒。多分病院。取り敢えず体を起こします。

「う・・・・・」

なんだか力がでないな・・・

ん? よく自分の体を見てみるとひつひつやくなってるじゃないか~

体は子供!! 頭脳は中2その名は名探偵「お察しください」ン

いや、くだらない事言つてる場合ぢゃない。

なんで体がちつちつやくなつてんの?

なんでバブー(世界共通語、ウチの保険の先生が言つてたんだから間違いない!)しか言えないの?

なんで今泣いてんの? 確かに泣きたいけども!

「それではどうぞ~」

ん? 誰か入つてきたみたいだな

あ、こいつに向かつてきた。なんだ?

あれ?俺の事持ち上げたぞ?

まさか・・・・・この人たちが

「さて、この子は小竜さんの病室に連れてかないと」

なんだよ・・・・・看護婦さんかよ・・・・・はあ・・・・・ん? この人の話によると俺の親は小竜っていうのか・・・・・覚えておこいつ

「小竜さん～お手とんですよ～」

え、マジで？この人たちが俺の親・・・  
いや・・・前の世界の俺の親じやん・・・  
いや違うな・・・だつてなんか若いもん・・・

「ほーら、パパですよー。ふせせせせせせせせ

うーん、父親…………らしからぬ笑い方だな…………

「ちょっと顔わざ。怖がつけるじゃよー」

「ハツハツハ！冗談冗談！しかしあれだな…………この子は猿に似てるな～」

・・・・・だと「ウフフ、龜ジジイ  
やんのかおい

「 もうーなんて事言つのもーー。」

もうだそーだーーなんて事言つんだーーちょっと顔がいいからって酷くねーか！？

「冗談冗談ーといひの子の名前は何さうる？」

「それね～・・・・・劍心なんでもいい？」

「こ、この魔女がやめよ!」

おーーーお前はどこの比古清十郎だよーーー  
つてなにこのマイナーなソシ ロリーリー

「うん・・・・・海賊王は？」ルフィ

「やめよ。勘違いされるから。看護婦さん」

だからお前はビーバーのギャルだよ……ビーバーの……

「え～・・・・・じやあ～」

# 頼むよ俺の母親

頬むから遍画のキヤラサガシある。一

「じゃあ……・・・・・光太郎ーー！」

「光太郎？」

「…………真っ暗な人生をおくるより…………明るい人生を送つて欲しいから……どうかな！？」

「…………うん、いいな…………本当は一護とかそういう名前が良かつたけど！」

「好きなんだね。BLEACH」

小竜…………光太郎…………前の世界とは違う名前だけど…………

そういう…………意味込めてたんだ

俺の名前つて…………

俺の親・・・・・この世界の俺の親・・・・・

前の世界では物心着く前に死んじゃつたから

この世界の俺の親がいい人でよかつたな

「ほ〜ら。お母さんですよ〜光太郎〜」

「あ、光太郎今笑った」

「ふふ、かわいいね」

「そうだな・・・・・立派に育つてくれよ！光太郎！～」

母さんは俺の事を抱き上げてくれる

なんだか・・・・・暖かいな

この世界に転生して・・・・・よかつたの・・・・・かもな

」の人たちに、迷惑かけないようになーと・・・・・

「いかがりよろこべね！光ちゃん！」

「光太郎！よろこべなー！」

「いかがりよろこべなー・・・・・よろこべなー

俺の母さん、父さん

これから・・・・ようじく

第三話～田が覚めたら以下同文～

グラムサイド

l  
· · · · ·

目が覚める。眩しい。おそらく病院だと思つ。多分・・・・・

「あー・・・あーうー・・・」

おかしい。おかしいぞ。何故普通に言葉が出ないんだ？

モード、モード

「おー・・・おー・」

# 病室に僕の声が響く

僕は必死でいて叫ぶ。・・・・・が、意味なし。

よぐよぐ考えたゞ線が低しよ／＼な氣か

うてあれ? 手からひき抜いていいなあ。おもで赤ちゃんのようにな

## 赤ちゃんのようないい處

# つて今の僕の姿

「ああ～！～ああ～う～！～（なんだこれええええ～！～なんで赤ちゃんになつてゐるのぉおおおお～！？）」

赤ちゃんになつてゐるせいか言語もあ～とう～しか出ない・・・・・

・・・・・やうに僕の周りはガラスの牢獄・・・・・

見て！～この地獄の三連コンボ

波 拳 昇 拳 龍巻 風脚のようなコンボ（力 コンのみなさん本当にあつがとつ）

ごホン！～・・・・・ [冗談はこれくらじで・・・・・

今の状況を簡単にいえばさつさまで中学一年生の体だったのになぜか今は赤ちゃんの体になつてゐつて、この状況

つまり・・・・・人生リスタートといつ訳である

しかし・・・・・このガラスの牢獄・・・・・確かに未熟児が入れらるんだよね・・・・・

じゃあ僕、未熟児？オーマイガーー

そんなことより僕にはもっと大事なことがあるじゃないか

・・・・・ 肝心の僕の親はどういう人なんだ？！？ という普通の日常だったら絶対遭遇しない質問

これである

いやまじでパンチパーマかけてるお父さんとかガングロなお母さんとか嫌だよ～～

普通の親でありますよ～～・・・・・

「それではビンタ～～

わっ！来た！！

「わっ……パンチパームのお父さんとガングロメイクのお母さんだ……

最悪だ~~~~~もうダメ…………死にたい…………

「ひち来なこでよ~…………

「うわー、めじ越可憐くねー?」

「やせこんじやね?」「こつまじ可憐こですナビー海賊王<sup>ルワ</sup>ひび前<sup>ト</sup>しほりばー。」

「いいね!それ

そういう二人のヤンキーは赤ちゃんを連れて病室から出していく

よかつた…………僕の親があんなのじゃなくて…………

そしてあの親の赤ちゃん…………回<sup>カミ</sup>すみよ…………

あ、次来た

「うわ～ウチの子かわい～萌え～萌え～」

「うわ～男の子でよかつた～」

うわ、氣色悪つ！何この親一人揃つて愚の骨頂！！鬼畜の所業！！  
こうして腐った人類が増えていくのか・・・・くわばらくわばら

あ、また來た

「・・・・あれ？僕は何をしにきたんだっけ？」

・・・・帰っちゃつたよ・・・・

じつやう歩歩くと記憶無くしてしまひしき……かわい  
そつこ・・・・・

いつも変な親が三十人くらいこの病室に入ってきたがその後何時間も待つたが僕の親は来なかつた

(おかしいなあ・・・・子供が生まれたら様子を見に来るとかするんじやないのかな・・・・・)

すると一人の帽子をかぶつた老人が現れて、看護婦さんに話をしにきた

そりへいのおじいさんは僕のほうに向かって歩いてくるじゃないか!!

「この子が大統領のご子息様ですか・・・・グラム・オーディンという名を大統領から預かっていますが・・・・なんともかわいらしい・・・・・」

え・・・・・大統領の・・・・・息子・・・・・?

「さて……こきまますよ。グラム様」

え、やめー！やめー！連れてかないでーーつれてかなこでよーーお願いしますから離してえええええーー」

が僕の（心の）叫びはむなしくこのお髭が素敵なご老人につれて  
かれ、無茶苦茶でかいリムジンに入れられ、無茶苦茶でかい豪邸に  
連れてかれたんだな）・・・・と僕が感傷に浸るまで・・・・

第三話～田が覚めたら以下同文～（後書き）

次はあれだ。あの～・・・・・光太郎が四歳くらいのときの話です  
ね

## 第四話～いつかの出来事～（前書き）

めちゃ短いです

第四話～いつかの出来事～

前回、目が覚めたら俺は赤ちゃんになっていた  
しかも俺は小竜さんちの光太郎君っていうのだからまあ、驚き

そして月日は・・・・一年たつた・・・・

「さひるちゃんが立つて歩くよくなつてから四ヶ月……か」

「そしてオレの事をパパ、ママつて呼ぶよくなつてから  
・四ヶ月……か」

「うなんだよね……

俺がこの世に転生されてから一年経つんだよね……

しかも不思議なことに田口が立つ「」の世界に来る前の記憶  
が消えていくんだよなー・・・・・

忘れるんだじゃなくて、消える

だからもう一度と思って出せない・・・・・

悲しこよくな・・・・・うれしこよくな・・・・・

そりゃ、楽しい事も忘れないから、悲しい事もなくなるからな・・・・・

ま、いつか。一度と元の世界に戻る事はできないだろ? けど・・・

けど・・・・・忘れないかな・・・・・あいつの「」も・・・

今は名前も・・・・・あいつのとの思い出も消えちゃったけど・・・  
・・・あいつの顔とあいつと親友だったたつてことは覚えてる

死んだ人の記憶はなくなるって言つたけど・・・・・あいつの事を  
覚えてるってことば・・・・・

あこつも・・・・」の世界のどけで・・・・

「へクチユンーー！」

「おや? グラム様。 風邪ですか?」

「あ~。 う~! (誰かが僕の噂してたんだー爺)」

「う~む・・・・・そうか。 ミルクが欲しいのですか! それでは今  
しばらくお待ちください!」

「あ~あ~! (爺)・・・・・違つてば・・・・・(」

「ちがうか？俺は魅音の子供の頃に似てるかと思ひたどな～

「それにしても・・・・・・世の悪やうがちがうへんな

「マジか!? 妈さんの小さい頃って俺に似てるんだーーって俺が母さんによく似てんのか・・・・・・

「これから・・・・・光太郎はどうになってるんだひづな

「あなたみたいに身体能力がすごい子だつたりして」

「ハハ。 そうであつたとしても・・・・・俺と同じ道は通つて欲しいな」

「言わないで。 私たちは・・・・・やめよつ・・・・・」の話

「やうだな・・・・・もつあつちの世界とは違つかうな

「どういとだ?

「あつちの世界つじとつこひ」とだよ・・・・・あへへへーー無茶  
苦茶氣になるーー

それに・・・・・父さんが」の話を使用とした時の母さんの顔・・・  
・・・

一人に・・・・・何があつたんだよ・・・・・

あ～～～無茶苦茶気になるーー！

「あ～～～う～～～～～～！」

「あ～り～～～じ～したの～」ひかりちゃん

「あ～？ あなたおむつを変えるのもできないのに、牛乳を哺乳瓶に入れるなんて出来るのかな？」

「あ～？ あなたおむつを変えるのもできないのに、牛乳を哺乳瓶に入れるなんて出来るのかな？」

「当たり前だろー。」れでも昔はキングの一つかを持っていたんだからなー！」

「あの頃前。懐かしいね」

「ああ・・・・・シドに龍華に燐・・・・・あこひらめいてんだ  
るひな」

「そんなことよつー・ミルク、ミルク！」

「ああ、やうだつたな！待つてろー！今持つてきてもやむからなーーー！」

・・・・・まあ、前の世界よつは・・・・・今の世界のよつが楽  
しいなーーー

さあて・・・・・これからを楽しみましょつかねーーー

## 第四話～いつかの出来事～（後書き）

はあ・・・・・辛いですね・・・・・

この話は光太郎君が前の世界の記憶を持っていた、最後のときの話  
ですね

次回から光太郎君の記憶はなくなりちゃうからもう、中2の思考で  
はなく三才の思考ですので。あしからず

第五話 入園式前！～

桜道・・・・・

「父ちゃん…早く早く…。」

「ハハッ。光太郎…ちよつと待つてくれよ~」

「ほりほり。勇さん置こいかれちゃうわよ?..」

「わかってるってー。」

「やつ父ちゃん…早く…。」

「分かつた！分かつた！」

今日は光太郎君が通う幼稚園の入園式です

三年前まで中学一年生だったのが今は三才の幼稚園児に

何故こんなことになつたのか

理由は簡単。彼の親友と道端で話をしていたとき、急に出来た落とし穴に引っ掛けちゃって、それでこの世界にテレボ～～ション！！しちゃった・・・といふわけなんです。

それで今の光太郎君の転生されてきたときはまだ前の世界の記憶はあつたけど今は・・・っていう状況

話を戻しましょうか。

そんで今日は彼の入学式

## 桜の綺麗な四月<sup>うづき</sup>

彼の心は希望に満ち溢れていました

「父さん……す」「…」の花……」  
「…」  
「…」

「光太郎。それは桜つて言つ花なんだよ。春になるとひやつて綺麗な花を咲かせるんだ」

「へへ・・・・・・・すげ~・・・・・・・」

今の光太郎君は昔の光太郎君と違つて三才の男の子だからそういうことも忘れてしまつたんですね~

しかし、記憶を消去してしまつても、親友であり、一緒にこの世界に来た、「彼」の存在は忘れていませんでした

「ねえ、父さん…今日夢見たんだ…」

「ん? どんな夢だい?」

「俺がちゅうがくになんせいになつて、ともだちができる夢! -.-.」

「へへ・・・・・ そなのか~。幼稚園に入つて友達ができるとい  
いね~」

「うん! -! 友達百人作るんだ! -!」

「へえ~・・・・・、百人作れるといいな! -!」

「作れといいんじゃなくて、作るんだよ! -!」

「ハハッ! そいつは」「めん! -」

果て

どこからどう見ても平和な家族の風景  
しかし、これから起きる少年の未来は  
しなく壮絶な戦いだつた

第五話 入園式前！～（後書き）

う～ん・・・・・微妙だな～・・・・・

次回！～なのはちゃん！～と光太郎が出会いちゃう～？

お楽しみに！～

第六話～はじめての友達！高町なのはーつてこの子は・・・

入園式)・・・

「んにちわ～～～～～～～！」

幼稚園に入学した皆さん…！「ん～にち～わ～～～～」

『

さっすがに子供たちは元気の塊である

「元気が一番……ありますんマークの引「お察しあげ」です……」

(うわ～…………なんか緊張するな～…………友達できるかな  
～…………ん?)

光太郎君は隣の少女を見る

髪は茶色のツインテール、名札には「たかまち　なのは」と書いている

あれ～?おかしいな?とお思いの読者様はお察しあげ

(この子のはつてこいつのか～…………友達になれるかな?)

「ん?どうしたの?」

「え?えっと…………あのね。名前なんていづの?」

(いやだからのはつて書いてあんじやん……苗字は漢字でわから  
ないけどなのはつて書いてあんじやん……)

と一人ツツ ハハする光太郎

「高町なのはだよ！」

「なのははつていうんだ……俺、小竜光太郎！！よろしくな！  
なのは！」

「しおうつしゅうひじつたるうか～……かつこいい名前だね！光  
太郎君だから『ハハちゃん』だね！」

「えー、ハハちゃん！？」

「え・・・・・ダメ・・・・・かな？」

幼稚園児の汚れの無い上目遣いにやられた光太郎選手！！KOです

「う・・・・・うん！いいんじゃないの？けど、あんまり人前で言  
わないで欲しいんだけどな」・・・・・

「うん！分かった！――」

本当に分かつたんだろつか・・・・・この少女は  
三年前の光太郎ならこう思つてることだらう

「それじゃよろしくね……」「わちやん……」

「うふー・よろしくー・ーなのは」

こうして「高町なのは」「小竜光太郎」二人の間に絆が生まれた  
それはまだ幼いものだが、いつしか誰にも断ち切れないほど強  
さになることだろう

その後、勝手にしゃべっていた光太郎となのはは先生に見つかり、  
しばらくお説教をくらいましたと

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3175y/>

魔法少女リリカルなのは～転生されちゃったよ。剣士と騎士が～  
2011年11月24日18時47分発行